

<万感>この1年の締めくくりとなる三月下旬は24節季“春分”にあたりスズメが巣作りを始め桜が咲き出す72侯の“雀始巢”と“桜始開”です。昨春はいろんなサクラがほぼ同時に咲き出しましたが、この春はカンヒザクラから始まり一月ほどかけて3分咲きほどの“ソメイヨシノ”と“ヤマザクラ”にたどり着きました。それにしても日本人はサクラが好きですね。和歌、俳句そして絵画などの題として昔から限りなく採りあげられています。数ある中から「菜畑に 花見顔なる 雀哉(芭蕉)」と「桜花 何が不足で 散りいそぐ(一茶)」、何とも対照的です。そこで淡々と「さまざまな 事おもひ出す 桜かな(芭蕉)」。小鳥のさえずりだけが聞こえるようなのどかな昼下がりに唯ただ花を眺めていればいろんなことに想いが至ります。<No.1と比較参照>→



<桜色、雪白、若苗(わかなえ)色>赤、白、黒など色を表す名前として私たちが日ごろ使っているのは多くても20種位ですね。ところが日本の伝統文化に培われた色を表す名前は450種以上もあるようです。

ソメイヨシノの花びらが桜色、カンザクラは虹色か鶺鴒(とき)色、そして“クマシデ”の花は若苗色でしょうか。今が満開の“ユキヤナギ”は遠くから見ると真っ白に盛り上がっています。この



<クマシデ>



<ユキヤナギ>

花の白は英語では“snow-white”、しかし伝統の色には“雪白”がなく“白”と“胡粉(ごふん)色”くらいです。黒や赤に比べ白系統の色の名前は少ないようです。

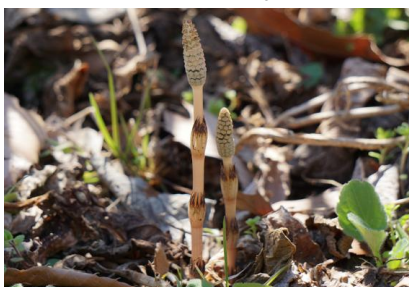
<ひかえめに>雑木林の縁辺の日陰では春の賑わいに先立ち控え目に花を咲かせているものがあります。まず一つは常緑の“ヒメカンスゲ”で柄を伸ばした先に1cmほどの白いブラシのような花を付けています。もう一つはオ



<ヒメカンスゲ>



<ヒメウズ>



ダマキをうんと小さくしたような“ヒメウズ”です。日当たりの良い道端ではツクシ(土筆)が顔を出しています。夢中になってツクシを摘み、家族みんなでわいわいと袴(はかま)を剥(む)く。母親が調理したツクシのほろ苦い味を思い出しますね。「前垂の赤きに包む土筆かな(漱石)」そして「仏を話す 土筆の袴 剥きながら(子規)」です。(文と写真: 松本正勝)